

小・中合同

令和6年度

# 教育研究員研究報告書

特別の教科 道徳

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究構想図	4
VI	実践研究	5
	< 検証授業 1 : 中学校特別支援学級 >	5
	< 検証授業 2 : 小学校第 3 学年 >	8
	< 検証授業 3 : 小学校第 5 学年 >	11
VII	研究のまとめ	14

## 研究主題

# 子供の可能性を引き出し、自己肯定感を育む指導の工夫

～子供が主体的に考える発問の工夫を通して～

## I 研究主題設定の理由

デジタル化の進展の他、国際情勢の不安化等、子供たちの育つ環境には大きな変化が生じている。「東京都教育ビジョン（第5次）」（東京都教育委員会 令和6年3月）では、『『未来の東京』に生きる子供の姿』として、「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる」姿を示すとともに、「I 自らの未来を切り拓く力の育成」の中で、「豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育」を基本的な方針の一つとして挙げている。

「小学校学習指導要領」及び「中学校学習指導要領」（以下「小・中学校学習指導要領」という。）では、特別の教科 道徳（以下「道徳科」という。）の目標として「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことが求められている。※（ ）内は中学校のみの記述

「小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編」及び「中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編」（以下「小・中学校学習指導要領解説道徳編」という。）では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、子供が多様な感じ方や考え方に接することが大切であり、子供が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることの重要性が述べられている。また、物事を多面的・多角的に考える指導のためには、物事を一面的に捉えるのではなく、子供自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切であるとされている。そして、道徳科の授業における教師の発問は、子供が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で重要であると示されている。

これらの内容を踏まえ、教育研究員が感じている道徳科の授業における課題について協議したところ、以下のような状況が課題として挙げられた。

- 教師が子供の実態に即さない発問をすることで、思考や話し合いが深まらず、多面的・多角的に考える指導とならないことがある。
- 教師がねらいとする道徳的価値を子供に押し付けることがあり、子供が教師の発問に対して、正解があると捉えてしまう。そのことにより、子供が自分の感じ方、考え方を発言することに消極的になり、主体的に学習に取り組むことができないことがある。
- 教師の発問に対する子供の発言に、教師がねらいとする道徳的価値を明確にしないまま問い返しの発問をすることにより、話し合いが深まらないことがある。

そこで本研究では、子供が自ら道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにするために、道徳科の授業における教師の発問を研究することとした。加えて、本年度の教育研究員共通研究テーマが「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」であること、また「小学校学習指導要領解説総則編」及び「中学校学習指導要領解説総則編」に「一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識できる自己肯定感を育むなど、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と示されていることを踏まえ、道徳科の特質を生かし、子供の可能性や自己肯定感を育むことを目指すものとした。

以上のことから、研究主題を「子供の可能性を引き出し、自己肯定感を育む指導の工夫～子供が主体的に考える発問の工夫を通して～」と設定した。

## II 研究の視点

道徳科の授業において、小・中学校学習指導要領解説道徳編では、特定の価値観の押し付けにならないよう、学年段階に応じて、主体的かつ効果的な学び方を子供自らが考えることができるような工夫をすることが大切であると示されている。さらに、子供の発達の段階に応じて、子供自らが道徳的価値を実現するための課題や目標、及び道徳性を養うことのよさや意義について考えることができるような指導を工夫することが求められている。

そこで、教師が道徳的価値の理解や道徳的判断力、心情、実践意欲に関する子供の様子や教材の特徴、各教科等での指導との関連などを踏まえた教師の願いを明らかにし、指導の要点を明確にした視点（以下、「明確な指導の意図」という。）をもって、発問の工夫をすることで、教師からの価値観の押し付けではなく、子供が主体的に道徳的価値について考えることを目指し、以下の二点の発問の工夫を研究の柱として設定した。

### 1 【視点①】 子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問

授業全体を通して、子供の思考がねらいに迫っていくために、道徳科の学習指導過程の各段階のうち、特に導入の段階において、発問を工夫することにした。そうすることで、子供自身が本時の授業でねらいとする道徳的価値について興味や関心を高め、自己を見つめる動機付けを図ることができると考えた。

さらに、教材提示後に教材文を読んで感じた子供の疑問や思い等の感想を問い、その後の発問につなげることで、子供が主体的に道徳的価値について考えることのできる授業を展開することができるようにした。

※ 発問例については検証授業を参照

小学校低学年：登場人物にフォーカスした発問（検証授業2 小学校第3学年）

小学校高学年：登場人物、場面にフォーカスした発問（検証授業3 小学校第5学年）

中学校：登場人物、場面、教材全体等にフォーカスした発問

（検証授業1 中学校特別支援学級）

## 2 【視点②】 子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問

子供が様々な視点から物事を理解し、考えを深めることができるよう教師が「明確な指導の意図」をもち、子供の発言に対して問い返しの発問を行う。予想される子供の反応に対して広げたり深めたりする問い返しの発問を事前に考えておき、ねらいとする道徳的価値を広げたり深めたりすることができるようにした。

- 更に深く考えさせるために、授業のねらいに迫る発言に対して問い返す。
  - ・ 「どうして／なぜ、そう思いますか。」 (検証授業1～3 必要に応じて発問)
- 授業のねらいに迫るために、全体に広げたい発言に対して問い返す。
  - ・ 「この中で、(子供が発言した複数の発言を板書した黒板を示しながら) どの思いが一番強いと思いますか。」 (検証授業2 小学校第3学年)
  - ・ 「二人は互いのことをどのように思っていたのでしょうか。」 (検証授業3 小学校第5学年)

## Ⅲ 研究の仮説

教師が「明確な指導の意図」をもち、意図的に発問の工夫を行うことで、子供は主体的に道徳的価値について考えることができるであろう。

## Ⅳ 研究の方法

### 1 課題の整理と指導方法の研究

学習指導要領解説等に示されている内容と教育研究員が所属する学校の子供の実態やこれまでの指導とを照らし合わせ、課題を明確にするとともに、課題を解決するための指導方法を検討し、研究主題を設定した。

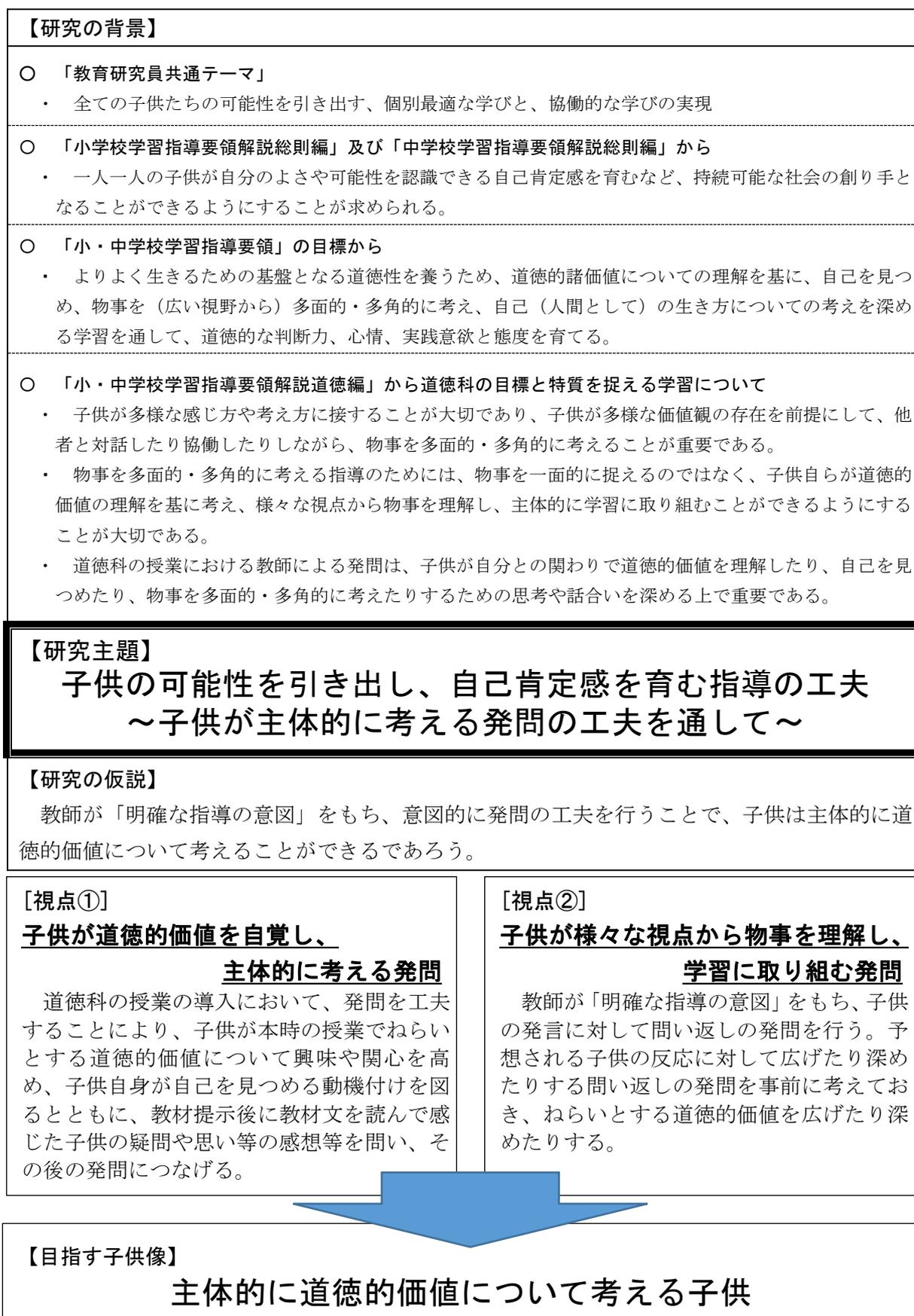
### 2 授業実践

検討した指導方法は、道徳科の教育研究員所属校において「Ⅱ 研究の視点」に基づき検証授業として実践した。

### 3 検証授業及び授業実践を通じて明らかになった成果と課題の整理

子供の発言や振り返りシートから、「Ⅱ 研究の視点」に基づき、検証として行った授業実践が、子供が主体的に考えているかという視点から、有効であったかを分析し、研究の成果と課題をまとめた。

## V 研究構想図



## VI 実践研究

### <検証授業1：中学校特別支援学級>

1 主題名 人間の強さや気高さを信じ生きる D よりよく生きる喜び

2 ねらい よりよく生きる喜びを見いだそうとする態度を育てる。

3 教材名 「二人の弟子」

#### 4 研究の視点

(1) [視点①]子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問

○ 導入では、よりよく生きる生き方について問い、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識をもって、子供が主体的に取り組めるようにする。

○ 教材提示後に、「教材を読んで、どのように思いましたか。」と問い、子供の疑問や思い、考え等から、ねらいとする道徳的価値に迫る。

(2) [視点②]子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問

○ 子供の意見を全体へ問い返すことで、道徳的価値の広がりや多様さに気付かせるようにする。

○ 子供の疑問や思い、考え等の感想を、内容項目ごとに分類しながらまとめた板書をグループワークに活用し、考えを広げたり深めたりする。

#### 5 学習指導過程

	学習活動 (○発問 ◎中心的な発問)	◇指導の工夫 ☆評価の視点
導入	<p>1 主題について自分の考えをもつ。</p> <p>○ 「よりよく生きる」生き方とはどのようなものだろう。視①</p>	<p>◇ 内容項目に関わる発問をする。</p> <p>◇ 教材の登場人物を紹介する。</p> <p>[視点①]子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問</p>
展開	<p>2 教材「二人の弟子」を読んで話し合う。</p> <p>○ 教材を読んで、どのように思いましたか。視①</p> <p>&lt;問い返しの発問例&gt;視②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 智行の行動について、どう思いましたか。</li> <li>・ なぜ、そのように思いましたか。</li> <li>・ 道信はどのような気持ちだったのか。</li> </ul>	<p>◇ 子供の疑問や思い、考え等の感想を、デジタル機器を活用して全体で共有する。</p> <p>◇ 子供の疑問や思い、考え等の感想に対して問い返しを行い、広げたり、深めたりした考えを、板書にまとめる。</p> <p>◇ 子供の疑問や思い、考え等の感想を基に話し合う。</p> <p>[視点①]子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問</p> <p>[視点②]子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問</p>

	<p>○ 智行と道信のどちらがよりよい生き方をしているだろう。</p> <p>◎ 白ゆりを見て涙した智行は、その後どのような生き方をしたのだろう。</p> <p>&lt;問い返しの発問例&gt; <b>視②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その生き方をあなたはどう思いますか。</li> <li>・ どうしてそのような生き方ができるのだろうか。</li> <li>・ 智行にとって、その生き方はよりよい生き方なのだろうか。</li> </ul>	<p>◇ 中心的な発問の前に、ねらいに対して子供の教材理解が不十分だった場合に問うことで、ねらいとする道徳的価値に迫ることができるようにする。</p> <p>◇ 板書を活用して、多角的・多面的にねらいとする道徳的価値への考えを深める問い返しを行う。</p> <p><b>[視点②] 子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問</b></p> <p>☆ 智行と道信の生き方を通して、人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、よりよく生きる喜びを見いだそうとしているか。</p> <p>(ワークシート)</p>
<p>終末</p>	<p>3 主題についての自己の考えを問い直す。</p> <p>○ 「よりよく生きる」生き方とはどのようなものだろう。</p>	<p>◇ 導入と同じ発問をすることで、ねらいとする道徳的価値への考えの深まりを捉え、更に問い直しをすることで、より深く考えられるようにする。</p> <p><b>[視点②] 子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問</b></p> <p>☆ 智行と道信の生き方を通して、人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、よりよく生きる喜びを見いだそうとしているか。</p> <p>(ワークシート)</p>

## 6 板書



## 7 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

### (1) [視点①] 子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問

- 子供の疑問や思い等の感想をデジタル機器のコメント共有機能を活用しながら黒板にまとめ、その後の発問に生かしたことで、子供が主体的に道徳的価値について考えるきっかけや子供の授業への参加意欲の向上につながった。
- 教材提示後の自由感想では「教材を読んで、どのように思いましたか。」と発問したが、教材を読むだけでは、ねらいとする価値について考えることができていない子供がいた。導入の段階で、本時で扱う道徳的価値について、明確に子供が意識できるような工夫の必要があった。

### (2) [視点②] 子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問

- 教師が問い返したことで発生したやり取りを聞いた子供が、そのやり取りから自己の考えを深め、ワークシートに記載した内容から、追記したり、深めた考えを基に発言をしたりしながら振り返ることができた。
- 本時の教材文は多様な内容項目で考えることのできる教材であった。そのため、子供の疑問や思い、考え等の感想を問う発問で、本時のねらいとは異なる視点の発言が多くあった。限られた時間の中で、本時のねらいとする道徳的価値について子供に考えさせるためには、教師が一層「明確な指導の意図」をもち、問い返しの発問を考えておく必要があった。
- 本時の授業では、子供が教師の予想とは大きく異なる反応を示すことがあり、ねらいを達成させるために問い返しを繰り返し行う必要があった。教師は子供に対する理解を深め、意図的・計画的に、ねらいとする道徳的価値への考えを広げ深める問い返しを行う必要があった。

<検証授業2：小学校第3学年>

- 1 主題名 自分に正直に A 正直、誠実  
 2 ねらい 正直に明るい心で元気よく生活しようとする心情を育てる。  
 3 教材名 「まどガラスと魚」  
 4 研究の視点

- (1) [視点①]子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問  
 ○ 導入では、事前アンケートを活用して「これまでに正直に言えなかったり、できなかったりしたことはありますか。そのとき、どのような気持ちになりましたか。」と問い、ねらいとする道徳的価値に対して、問題意識をもって主体的に学習に取り組むことができるようにする。  
 ○ 教材提示後に「千一郎についてどのように思いましたか。」と問い、子供の疑問や思い等の感想を発問に生かすようにする。そのために、教材提示前に、千一郎の視点に立って教材を聞くように伝え、ねらいとする道徳的価値に迫ることができるようにする。
- (2) [視点②]子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問  
 ○ 展開では、ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えられるようにするために、予想される子供の反応に対して広げたり深めたりする問い返しの発問を事前に考えておき、その中から適した問い返しの発問を行う。また、意見を共有する際は、「なぜ、そう思いましたか。」と子供同士で問い返すようにすることで、協働的な学びを深めることができるようにする。

5 学習指導過程

	学習活動 (○発問 ◎中心的な発問)	◇指導の工夫 ☆評価の視点
導入	1 主題について自分の考えをもつ。 ○ これまでに正直に言えなかったり、できなかったりしたことはありますか。そのとき、どのような気持ちになりましたか。 視① <問い返しの発問例>視② ・ みなさんも、同じ経験はありますか。 ・ ○○さんの考え方について、どのように思いますか。	◇ 事前アンケートにより、子供一人一人が主題について考えをもてるようにする。 [視点①]子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問 [視点②]子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問 ◇ 大型テレビに事前アンケート結果を映し、意見を全体に広げる問い返しをする。
展開	2 教材「まどガラスと魚」を読んで話し合う。 ○ 千一郎についてどのように思いましたか。 視① <問い返しの発問例>視② ・ なぜ、そのように思いましたか。	◇ 子供の疑問や思い等の感想を黒板に書いて、展開の発問で生かす。 [視点①]子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問 [視点②]子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問

	<p>○ 窓を割ってしまったとき、千一郎はどのような気持ちだったでしょうか。</p> <p>&lt;問い返しの発問例&gt;<b>視②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 謝りに行くのは怖くないですか。</li> </ul> <p>○ お姉さんが丁寧に謝っている姿を見たとき、千一郎はどのようなことを思ったでしょうか。</p> <p>&lt;問い返しの発問例&gt;<b>視②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (不誠実な意見に対して、)本当にこのままでよいですか。</li> <li>・ この中で、どの思いが一番強いと思いますか。</li> </ul> <p>◎ おじいさんの言葉を聞いたとき、千一郎は、どのようなことを思ったでしょうか。</p> <p>&lt;問い返しの発問例&gt;<b>視②</b></p> <p>今まで正直に言えていなかったのに、正直に言えたのはどうしてだと思いますか。</p> <p>3 自己の生き方について考えを深める。</p> <p>○ 正直に言えてよかったなと思ったことはありますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。これまでの生活や今日の学習を振り返りながら書きましょう。</p>	<p>◇ 子供の考えに対して、あえて相対する問い返しをし、ねらいに関わる考えを広げられるようにする。</p> <p>[視点②]子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問</p> <p>◇ ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に取り上げるために、考えを深める問い返しをする。</p> <p>[視点②]子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問</p> <p>◇ ねらいとする道徳的価値の理解を深めるための問い返しをする。</p> <p>[視点②]子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問</p> <p>◇ 自分との関わりで考えさせるために、経験と心情を想起させるようにする。また、自己肯定感を高めるために、子供の考えに対して丁寧に価値付けをする。</p> <p>☆ 正直に明るい心で元気よく生活しようとするよさについて考えている。(ノート)</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇ 始めは、正直に言うことができなかったが、正直に言うことができたときの気持ちよさについての経験を話す。</p>



<検証授業3：小学校第5学年>

- 1 主題名 分かり合うために B 相互理解、寛容  
 2 ねらい 自分と異なる意見や立場を尊重して、広い心で人と接しようとする態度を育てる。  
 3 教材名 「ブランコ乗りとピエロ」

4 研究の視点

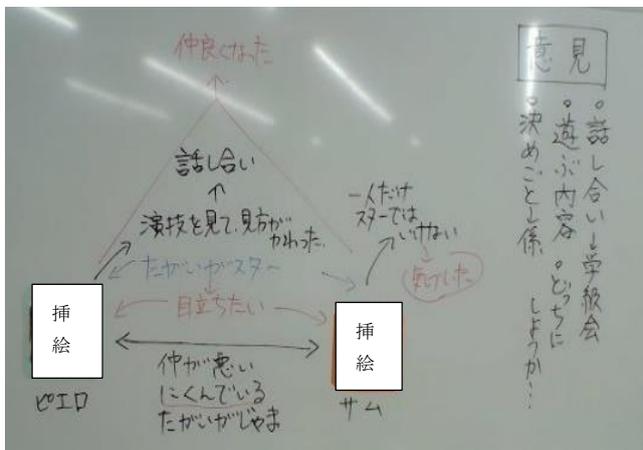
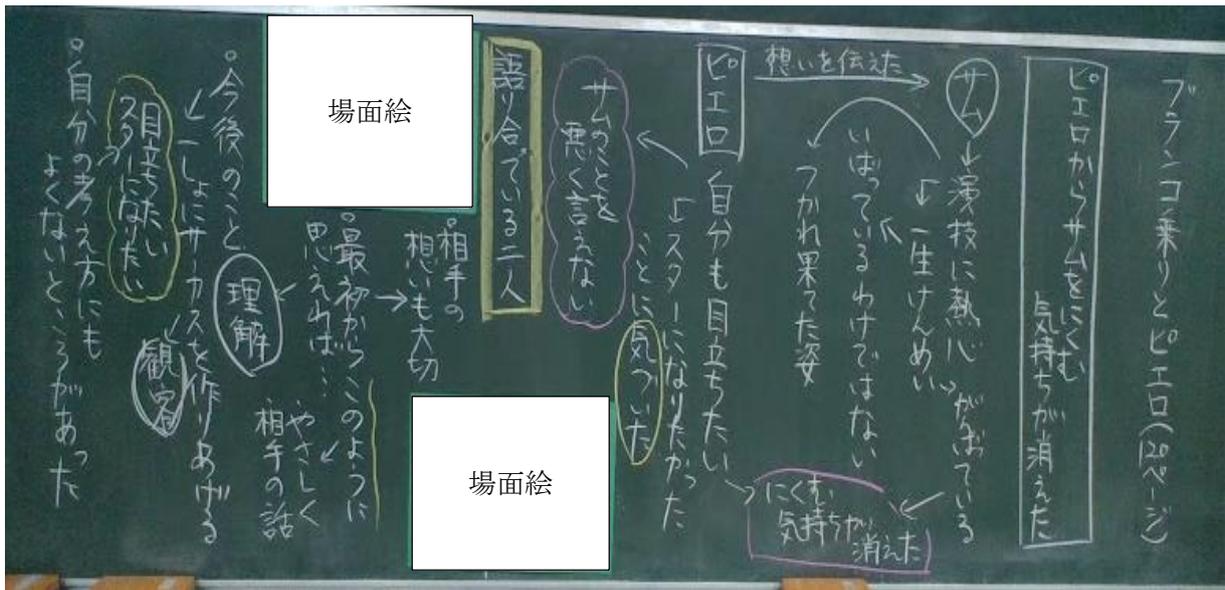
- (1) [視点①]子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問  
 ○ 導入では、「友達と意見が違ったことがありますか。それは、どのようなときですか。」と問い、友達と意見が違った場面を想起させることで、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識をもって主体的に取り組ませるようにする。  
 ○ サムとピエロがどのようなことを考えているのか、想像しながら教材文を読むよう促すことで、ねらいとする道徳的価値に迫ることができるようにする。また、教材提示後は「サムとピエロの関係性についてどう思いますか。」と問うことで子供の感想を引き出し、その後の発問に生かす。
- (2) [視点②]子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問  
 ○ 「ピエロの心からサムを憎む気持ちが消えたのは、どのようなことに気付いたからですか。」と発問し、子供一人一人が自己の考えをもつ時間をとる。その後、問い返しシートを活用し、子供同士で互いの意見を交流しながら、自己の考えを広げたり深めたりする活動を設定する。さらに、子供同士の交流後、教師が事前に用意した問い返しの発問を行うことで、子供が、本時のねらいとする道徳的価値について深く考えられるようにする。

5 学習指導過程

	学習活動 (○発問 ◎中心的な発問)	◇指導の工夫 ☆評価の視点
導入	1 友達と意見が違った場面を想起する。 ○ 友達と意見が違ったことがありますか。 それは、どのような時ですか。 <b>視①</b> ・ある →話合いの時 (学級会) →遊ぶことを決める時 →係活動などの決めごと ・ない	◇ 友達と意見が違った場面について発表させる。 ◇ 登場人物の簡単な紹介をする (相関図) ◇ 教材提示前にサムとピエロがどのようなことを考えているのか、考えながら聞くように促す。 [視点①]子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問
展開	2 教材「ブランコ乗りとピエロ」を読んで話し合う。	◇ 教材文を読んでサムとピエロの関係性をグループで話し合わせる。話し合っている内容を座席表に記録し、展開の発問で生かす。

	<p>○ サムとピエロの関係性についてどう思いましたか。話し合ってみましょう。<b>視①</b></p> <p>&lt;問い返しの発問例&gt;<b>視②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピエロはサーカス団のことだけを考えていたのでしょうか。</li> </ul> <p>○ ピエロの心からサムを憎む気持ちが消えたのは、どのようなことに気付いたからですか。</p> <p>◎ 語り合っている二人は、どのようなことを思っているのでしょうか。</p> <p>&lt;問い返しの発問例&gt;<b>視②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お互いのことを考えている二人は、自分自身のことは考えているのかな。</li> <li>・ 二人が許し合うことのよさは、どこにあるのだろう。</li> </ul> <p>3 自己の生き方について考えを深める。</p> <p>○ 今日の学習で感じたことや考えたことを書きましよう。</p>	<p><b>[視点①]</b>子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問</p> <p><b>[視点②]</b>子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問</p> <p>◇ ピエロのサムに対する気持ちの変容を考えさせることで、謙虚な心で、相手の立場や考えを尊重することの大切さに気付かせる。</p> <p>◇ 子供同士の質問を促す問い返しシートを提示する。</p> <p>◇ ねらいとする道徳的価値の理解を深めるための問い返しをする。</p> <p><b>[視点②]</b>子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問</p> <p>◇ 今日の学習を通して、感じたことや考えたことをワークシートに書かせる。</p> <p>◇ 振り返りの前に導入時の板書に立ち返り、子供が話し合いを通して、深まった考えを実感できるようにする。</p> <p>☆ 自分と異なる意見や立場を尊重して、広い心で人と接しようとすることの大切さについて、考えることができていたか。(発言、ワークシート)</p>
終末	4 教師の説話を聞く。	◇ 詩の紹介をする。

## 6 板書



## 7 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

(1) [視点①] 子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問

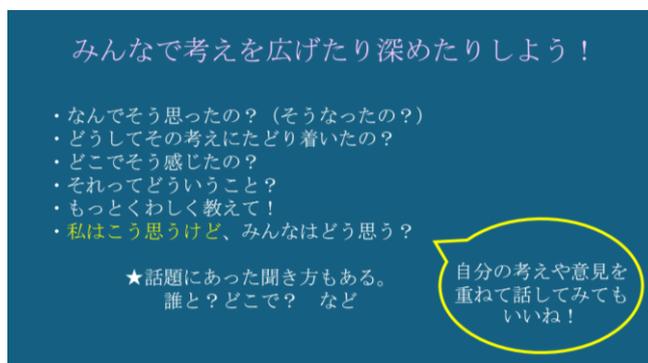
- 導入において、「友達と意見が違ったことがありますか。それは、どのようなときですか。」と本時のねらいとする道徳的価値に直接的に迫る発問を設定した。このことにより、子供は、日常の自分たちの様子を教材文の情景や登場人物の姿に投影しながら考えることができた。
- 子供の学習感想を生かした発問を行ったことで、子供は主体的に考えることができ、グループでの話し合いにおいても、ねらいとする道徳的価値について深く考えることができた。

(2) [視点②] 子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問

- 教師が意図的・計画的に問い返しの発問をしたことで、子供が自分の考えを一層深めたり、発言を聞いている児童が発言内容を踏まえた考えをもったりすることにつなげることができた。
- 子供が互いの意見に興味を示し、質問し合う活動を取り入れることで、より積極的に自分の考えを発言し、認め合う様子が増えた。
- 問い返しシートを活用し、子供同士で質問し合ったことにより、互いの考えに興味をもって話し合う子供の姿が見られた。

## 【問い返しシート】

印刷した「問い返しシート」を、子供がいつでも使えるよう常に取り出せるようにしておき、子供同士が互いの考えに質問し合う際に活用できるようにした。



- 子供の問題意識を高めるために教材文から感じた思いや感想を発問したことで、時間配分に一層配慮をしながら授業を展開する必要が生じた。そのため、問い返しの発問をする時間が限られてしまう結果となった。学習指導過程を構想する際には、展開の全体を見通し、活動を精選する必要があった。

## VII 研究のまとめ

本研究では、研究主題「子供の可能性を引き出し、自己肯定感を育む指導の工夫～子供が主体的に考える発問の工夫を通して～」を目指し、二つの研究の視点を設定して検証を進めた。

### 1 成果

(1) [視点①] 子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問

○ 導入で行う本時のねらいとする道徳的価値に関わる発問

- ・ ねらいとする道徳的価値についての興味や関心を高めた上で、教師が教材提示を行うことで、子供は今まで以上に登場人物の心情を深く理解し自分のこととして捉える場面が多く見られた。その結果、「私にも登場人物の気持ちが理解できる。」などと発言し、登場人物の人間的な弱さにも共感する場面が多く見られた。
- ・ 本時におけるねらいとする道徳的価値を子供に捉えさせた上で、教材提示後に感想を問うことで、複数の道徳的価値を含む教材文を活用した授業においても、子供が本時のねらいを意識しながら主体的に考え、話し合うことができた。

○ 展開で行う子供の疑問や思い等の感想を問う発問

- ・ 子供から出た感想をその後の発問と関連させながら行うことで、授業への子供の参加意識が高まり、主体的な学びにつなげることができた。さらに、継続して取り組むことで、子供の発言が活発になり、子供が深く考えながら発言できるようになると考える。

(2) [視点②] 子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問

○ 「明確な指導の意図」をもち、子供の発言に対して行う問い返しの発問

- ・ 教師が「明確な指導の意図」をもって問い返しの発問を設定した授業を継続して行うことで、子供自身が自他の意見を深める視点をもつことができた。子供がグループで話し合う時にも、互いの意見に興味をもち、問い返す姿が見られた。子供自らが問いをもち考える姿は、本研究において目指す子供の姿であると捉えている。さらに子供同士で互いに質

問ができることを目的として作成した「問い返しシート」は、子供の主体的な学びにつながった。

## 2 課題

(1) [視点①] 子供が道徳的価値を自覚し、主体的に考える発問

- 事前に十分に子供に対する理解や教材理解を深めていくことで、より効果的な発問づくりを研究していく必要がある。
- 教材提示後に教材文を読んで感じた子供の疑問や思い等の感想を生かした発問を入れたことで、時間が足りなくなる場面が見られた。限られた時間の中で、人間理解や他者理解、価値理解を図っていくため、発問を精選していく必要がある。

(2) [視点②] 子供が様々な視点から物事を理解し、学習に取り組む発問

- 子供の発言が教師の予想から大きく外れた時にどのように問い返すかを迷うことがあった。子供が、ねらいとする道徳的価値について深く考えることができるよう、教師が「明確な指導の意図」をもち、子供の授業での様々な反応を想定しながら発問の構成を行っていく必要がある。

本研究の2つの視点に立ち、子供が主体的に道徳的価値について考えることができるような発問の工夫をしたことで、答えの定まっていない問題を子供が多面的・多角的な視点に立ち、自分の考えをもって、自己の生き方について積極的に考える姿が多く見られるようになった。自己の生き方について積極的に考え、「自分にはどのようなよさがあるのか。」や「どのように改善すべきか。」など深く考える姿勢は、子供の可能性を引き出し、自己肯定感を育む指導につながっていくと考える。

# 令和6年度 教育研究員名簿

## 小・中合同 特別の教科 道徳

学 校 名	職 名	氏 名
文 京 区 立 駒 本 小 学 校	主 任 教 諭	◎野 崎 大 智
澁 谷 区 立 笹 塚 小 学 校	主 任 教 諭	俣 野 美 絵
荒 川 区 立 第 四 峡 田 小 学 校	主 幹 教 諭	木 村 祐 輔
板 橋 区 立 下 赤 塚 小 学 校	主 任 教 諭	笹 川 皓 紀
足 立 区 立 弥 生 小 学 校	主 任 教 諭	谷 貴 史
江 戸 川 区 立 中 小 岩 小 学 校	主 幹 教 諭	佐 藤 友 也
武 蔵 野 市 立 第 四 中 学 校	主 任 教 諭	中 野 達 矢

◎ 世話人

〔担当〕 教育庁指導部義務教育指導課  
課長代理 伊藤 聖

令和6年度

教育研究員研究報告書

小・中合同 特別の教科 道徳

令和7年3月

編集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849